

▽6月28日(木) 1日目

新宿～墨田～塩釜～仙台(泊) 計464km



快晴で汗ばむ陽気のなか、時間通り全員が集合し8時に新宿を出発。このツアーを取材したいと、シンガポールTVの取材クルーがカメラを手に同行しました。

一路、BDFの給油を行う墨田区染谷商店へ。給油を待つ間、簡単にではありましたが、株式会社BDFの松尾氏より、油の回収からBDF生成の流れについて説明を受けました。みなさん興味津々で質問も尽きない様子でしたが、まだまだ先が長いと、早々に打ち切り最初の目的地である塩釜へ向かって発車しました。

シンガポールTVの取材クルーは、こちらで下車です。アジア8都市でオンエアされているとのこと。どんなカタチでオンエアされたのでしょうか？

塩釜へ向かう車中では、参加者がそれぞれ自己紹介。フリーライターの方、主婦でNPO活動に積極的に関わられている主婦の方、環境教育に興味のある学生さんなどなど、いろんな背景や興味を持った方々が参加され、参加者同士の交流もこのツアー大きな魅力となりました。

仙台周辺での視察・交流のコーディネートをしていただいたスモリ工業株式会社の早田宏徳氏と合流し、塩釜市水産加工組合が中心となって設置されたBDFプラントへ向かいました。

給油を行っている間に施設見学。全国の14%のシェアを持つ揚げ蒲鉾の工場や水産加工場などから出る廃食用油を回収し、それをBDFに精製しているとのこと。本施設は、地球温暖化防止に寄与するため、環境省の援助も受けて造られたようで、非常にきれいな施設に一同ビックリしました。また、この施設が見たくて同行していた株式会社BDFの松尾氏は非常に高性能なBDFだと、コメントされていました。



その後、地元塩釜出身のフォトグラファー平間至さんが寄贈し、ツリーハウスクリエイターの小林崇さんが建設したツリーハウスを見るため、塩釜市生涯学習センターふれあいエスプ塩釜を訪れました。参加者のみなさんも次々とツリーハウスに上がって、子どものように楽しんでいました！

そして、アースデイ東京でも話題になった4Rハウスのスモリハウススタジアムに移動。地震や台風時などを体験できる施設で、それらを実際に体感しこれからスモリ工業さんが目指す家づくりについてのお話を伺いました。風雨を起こす装置は社員のみなさんの手作りだそうです。実は、その話しが一番喚声を集めていた！？

夜は、仙台圏エコロジーミーティングのみなさんとの交流会が行われました。ライブハウス Zepp Sendai の藤井氏や、みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) の小林氏、株式会社アー・スリーの方々など大勢の方が駆けつけていただき、短い時間ではありましたが交流の時間を持つことができました。

宿泊は、スモリ工業さんの住宅展示場に3つに分かれて宿泊。快適な住環境を体感することができました。特に女性が宿泊したお家は非常に豪華で、うらやましい限りでした。

▽6月29日(金) 2日目

仙台～葛巻～八戸～フェリー(泊)計378km

朝は焼きたてのパンでお腹を満たし、一路葛巻へ。道中、独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構(NEDO)が作成したビデオを事前学習として見ました。

葛巻では、町で運営しているくずまき高原牧場の牛糞バイオマスシステムを見学。くずまき町環境エネルギー室長の近藤氏が取り組みについて解説してくださいました。バイオガスから37kw/時の電力を発電し、牧場内の電力をそれで賄っているということです。

バイオマスエネルギーに加えて、風力発電や木質ペレット活用したボイラーやストーブの利用など、日本のクリーンエネルギー活用を牽引して来たのが葛巻町です。現在、総エネルギー使用の78%をクリーンエネルギーで賄っているということです。残り22%を木質ペレットの活用など、新エネルギーの比率を上げる努力を継続的に進め、100%を目指していくそうです。



昼食は、牧場内でBBQ。翌日の前夜祭でシングスカンの予定なので、今回は牛肉をいただきました。一部の方は、デザートとして濃厚なソフトクリームも堪能していました。

風力発電所の見学もしたいところではありましたが、時間の関係で八戸へ直行です。風力発電所の見学や日本のクリーンエネルギー先進地である葛巻町へは、別の機会をつくりまた訪れたいと思っています。

八戸では、NPO法人循環型社会創造ネットワーク(CROSS)の福田氏のコーディネートの下、あおもりエコタウン構想の中心八戸を見学して回りました。

まず、八戸インターチェンジ付近で、知的障害者通所授産施設こだまの園さんの協力を得てBDFの給油を行いました。

その後、八戸酒造さんが市民(がんじゃ里山の会)と協力して遊休のうちを活用して、無農薬米栽培をしているたんぼを八戸酒造の駒井秀介氏の案内で見学させていただきました。蟹沢(がんじゃ)地区は、八戸の水源地で、水が最もおいしいところ、とされているそうです。

続いて八戸の湊の風景を望むレンガ造りの酒蔵を外観から見学し、実際の仕込みも行っている酒蔵へ。そこでは、簡単な酒造りのレクチャーと、試飲をさせていただきました。どれもとてもおいしいお酒でしたが、一番人気は見

学してきたがんじゃ地区の水と無農薬米で仕込まれた「がんじゃ里山の酒」。リボーンでは、翌日の森林フェスタの前夜祭用に1ケースを購入しました。

八戸酒造の駒井庄三郎社長からは、酒造りや市民活動に対する思いなどを語っていただきました。

そして、夕食は八戸屋台村「みろく横丁」へ。各人思い思いに食事を済ませ、八戸港フェリー乗り場からフェリーへ乗り込みました。

2等客室内で居心地のいい寝床をなんとか確保し、一部の人は消灯までお酒を飲みながら語り合っていたようです。実は風が強く船は結構揺れていたようですが、お酒を飲んでいたせいかみなさん特に気にならなかった！？ようです。



▽6月30日(土) 3日目

苫小牧～支笏湖～月形～定山溪温泉(泊) 計346km

翌日は、6時30分にフェリーが苫小牧港に到着。ついに北海道上陸です！



港の市場に隣接されたマルトマ食堂で、特産品のほっき貝のカレーやうにほっき井など、新鮮な海の幸を堪能しました。そしてニュース等々で話題のミートホープの社屋、まーくんこと東北楽天の田中将大投手の母校駒大苫小牧高の横を通り過ぎ、支笏湖へ。

平成16年に北海道を直撃した台風18号は支笏湖周辺の森林約7千haを根こそぎなぎ倒して行きました。

北海道森林管理局石狩森林管理署の杉村氏の案内で、セブン-イレブンみどりの基金が支援する支笏湖周辺台風災害・復興の森(支笏湖の100haの大地に10万本の苗木を植えて育てる計画「よみがえれ支笏湖の森」プロジェクト)で植林作業を行いました。アカエゾマツやトドマツを約40本ほど植林し、植樹の記念碑も立てさせていただきました。

そして、森林スポーツフェスタ・前夜祭の準備の為に先に現地入りする壱岐を千歳駅で降ろし、今回の森林スポーツフェスタの一路月形へ。

月形では、NPO北海道に森を創る会・北海道空知森づくりセンターの指導で、森林作業の体験学習を行いました。簡単なレクチャーの後、実際にのこぎりを使って枝打ち作業を行い、何本か木の伐採も体験させていただきました。

森林への移動の際は、森林スポーツフェスタのゲストとしてバスに同乗していた長谷川佳文さんの指導でノルディックウォーキングを行いました。

そして、いよいよ北海道森林スポーツフェスタの会場定山溪温泉へ向かい出発です。途中、ゲストとして前夜祭に参加していただく、ラジオパーソナリティやまだひさしさんをピックアップ。私の確認ミスで何度か前夜祭会場

をいき過ぎてしまい、前夜祭開始に少々間に合いませんでした。参加者のみなさま、大変申し訳ございません・・・

前夜祭では、中西博大会実行委員長をはじめ、森林マラソンの提唱者である今井道子先生、ニュージーランド政府観光局のジェイソン・ヒル局長、やまだひさしさんらが登壇し楽しいお話しをしてくださいました。

ジンギスカンやおいしいお酒など、地元の食材が多数提供されていました。参加者の宿泊先は定山溪自然の村。いくつかのコテージに別れ、翌日のレースに臨むため早めに休みました。



▽7月1日（日） 4日目

定山溪温泉～千歳空港～苫小牧 フェリー（泊） 計 113km

北海道森林スポーツフェスティバル当日。

参加者はそれぞれ森林マラソン・森林浴ウォーク（ノルディックウォーキング）・マウンテンバイクツーリングに参加。

参加人数は森林マラソン 638 名、森林浴ウォーク 141 名、マウンテンバイクツーリング 34 名の登録者に加えて、森づくり体験へは同伴者を含めて約 200 人が参加しました。

マラソンスタート前に場内にそらべあ号の案内があり、興味を持った参加者のみなさんが、排気ガスのにおいを確認しにやってくるという一面もありました。

大会と並行して、植林のための「カミネッコ」作りも行われていました。紙製のポットを利用することで簡単に植林が体験できます。北大名誉教授の東先生が直接指導してくださいました。

大会終了後はお楽しみ抽選会が行われましたが、残念ながらそらべあ号からは当選者が出ませんでした。残念！一足先に東京へ帰る長谷川先生と今井先生をお送りするため、千歳空港へ向かいました。その際お土産センターへ寄り、各自お土産を入手。千歳空港で食事を兼ね、休憩を取りました。空港でしか扱っていないお土産などもあり、さらに買い物をした方も居たようですね。

そして、フェリー乗船のため苫小牧への移動中、ラムサール条約の湿地帯に指定されているウトナイ湖に立ち寄りました。夕暮れの紫に染まった湖面は美しく、その水面から大きな黒い魚影を見ることが出来ました。突然の寄り道のお願いにも快く応じてくださったドライバーの前川さん、本当にありがとうございました！

苫小牧港からフェリーへ乗船。今回は団体用に個室が用意されていて、非常に快適に過ごす事ができました。連日の疲れもあってか、早々に眠りにつく参加者のみなさんでした。



▽7月2日（月） 5日目

八戸～仙台～須賀川～新宿 計 709km

4時30分に朝日を浴びながら八戸港に上陸。陸奥港駅前朝市まで時間があつたので、うみねこの日本有数の繁殖地である蕪島に立ち寄りました。ヒッチコックの「鳥」を思わせるようなものすごい数のうみねこが飛び交い迫力満点。鳥の糞がかからないよう、見学用の傘が置いてあるなど、地元の有志によって蕪島神社の管理は行われているそうです。

その後、天然芝が南東12kmにも渡って自生する北東北有数の景勝地「種差海岸」へ。海浜植物なども朝日を浴びてキレイに咲き誇っていました。

そして、待ちに待った朝市へ。魚介類、乾物などが新鮮・豊富・安い！歴史と港町の風情が漂う陸奥湊駅前朝市へ。元気な「いさばのかっちゃん」（おみせの女性）の掛け声がこだましていました。市営魚菜小売市場で、ごはんとお味噌汁を用意していただき、新鮮な刺身や乾物などをおかずに、それぞれ買ったものをシェアしながらおいしくいただきました。個人的には、日本有数の水揚げを誇るというイカとヒラメのエンガワがとてもおいしかったなあ。

お腹を満たし、お土産などもたっぷり購入し、東京への帰路に着きました。

仙台でドライバーさんが交代。その後宮城県須賀川市で学校給食で使用した廃食用油を中心に、地元商店街やスーパーなどで有償回収した廃食用油を自社プラントで精製し、BDFとして活用している株式会社ひまわりさんで最後のBDFの給油を行いました。

給油の際には、佐藤博社長が直接株式会社ひまわりで進めている脱・温暖化への取り組みについてご説明いただきました。

須賀川を出だ後は、一路新宿を目指して高速道路をひた走ります。

新宿が近づいて来たところで、全行程を乗り切った参加者の方々から感想の言葉をいただきました。なんとその場で、旦那様と一緒にぜひ九州森林スポーツフェスタのツアーへも参加したいとお話いただく方も現れ、無事楽しくツアーを終わることが出来ました。

ご協力いただいた、各地の協力団体の皆様、安全に私たちを運んでいただいたドライバーの方々、そしてなによりこのツアーにご参加いただいた参加者のみなさま、ありがとうございました。

11月に開催予定の九州スポーツ森林フェスティバルのツアーでまたお会いしましょう！

